ノッキングマスターの弟子

ザンレイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ノッキングマスターの弟子

【Ｎコード】
Ｎ６９８４Ｘ

【作者名】
ザンレイ

【あらすじ】
テンプレで転生することになったとある青年はトリコの世界に旅立つ。神様からグルメ細胞と高めの身体能力、仮面ライダーＷの地球の本棚に似た能力を貰いトリコの世界を駆け巡る。バトルあり、恋愛あり、友情ありの壮大な物語…になったらいいなと思ってる物語である。オリ主転生者には早々とオリキャラ嫁が出来ます。
※作者は頭の回転が激遅でリアルもあるのでかなりの不定期更新になり駄文で短くもなります。批判中傷はお辞め下さい。作者の濡れた和紙で出来たハートがブレイクします。

はじめに

始めまして。ザンレイです。漢字にしようとも思いましたがカタカナでザンレイです。今回は皆様の作品を読ませていただいて文才も無いのに書いて見たくなりまして、今回のこの作品、《ノッキングマスターの弟子》を執筆する流れになりました。

今回の作品が処女作でありますのでいろいろと駄文、誤字脱字が目立つ場合があります。そして作者のハートは濡れた和紙か、朧豆腐で出来ていると思われます。なのでこの作品を読むにあたって読者さまに必要な物があります。　それはイラッとしても受け入れる広い心です。それで感想にて非難や批判中傷はお断りしますので、それでもおｋなら先に進じゃって下さい。そんなもん読めるかって方々はバックでお願いします。

はじめに（後書き）

あと、作者は書き溜めはしますがプロットなんかは書きません。執筆の時の気分で変わりますのでご注意下さい。

メニュー1

「…というわけで、今回の捕獲依頼受けて貰えないでしょうか？」

そう相棒の隣て腕を組んで立っていた僕に言ってきたスーツ姿の男性は五つ星ホテルで若くして料理長をしているらしくて名をコマツと言うらしい。確かに年齢にしてはかなりの腕をしているみたいだ。仕事にもかなり誇りを持ってるみたいだね。あ、ここまでで本人から聞いたのはまだ名前と依頼内容だけ。他の情報は僕の能力で調べてみた。

「ふむ。どうする、トリコ？」

そう言いながら、隣ていろいろと食べたりしながら葉巻木を咥えて釣りをしている相棒に尋ねる。

するとちょうど何か釣れたらしい。

「ザリガニフィッシュか…、ん？」

ちょうど釣り上げて空中に浮いているザリガニフィッシュに、向こう側から中々のサイズのイツツオオオワシ飛んで来て掴んでそのまま持ち去ろうとする。が、それを相棒のトリコが許すはずもなく、

「チッ、横取りしようってか、しゃらくさい。フンッ！！」

そう言いザリガニフィッシュをイツツオオオワシが掴んでいるにもかかわらず、竿を振り下ろし二匹を地面に叩きつける。ホント、すごい力だよな。ほら、コマツ君もビックリしすぎてすごい顔にな

ってるし。

「ん？誰だそいつ？」
「…やけに静かにしてると思ったら聞いて無かったのか。依頼だよ」
「おぉ！それならそう言えよ！」
あ、そういえばまだ僕の名前を言って無かったね。
「それで、今回は何を狩るんだ、カオル？」

カオル、それが僕の名前だ。

プロローグ（前書き）

なにか適当に書いてたらいがいに長くなってしまった。
あと、モンハンタグ付いてますが関係してくるのは少し後です。

プロローグ

ーーーーー

「ん、あれ？どこだココ」

ふと目を覚ますと周りには何もなく、ただ真っ白な空間が広がっていた。確か学校の帰り道で普通に歩いていたら後ろから衝撃と、何かが刺さる音がして振り向いたら知らない男が何か赤いものを持っていたような。それから記憶の記憶はないけど。

「「気がついたか」」

「…なんで最近見なくなった芸人さんがいらっしゃるんでせうか？」

声が聞こえたので後ろを見てみるとそこそこ前に暇つぶしをする神様のネタで有名（？）になったあの二人がいた。

「「我々は君達人間の言うところの神だ。本来我々には形というものがないのだが、話しやすいように君の頭の中を見てみたら神といったらこの姿だったようなのでこの姿を借りている」」

え～、僕あの芸人そんなに好きだったかな？

「「他にも候補はあったのだが、我々がこの姿が気に入ったのだ」」

すごいよ芸人のお二人！本物の神様（的なもの）に認められたよ

！ってあれ？

「僕、声出してました？」

「「我々が人間の思考を読むなど簡単…あの某有名な赤い配管工が無限１ＵＰするぐらい、モン〇ンで、Ｇ級装備着て最下位のドスファンゴを相手にするぐらい簡単だ」」

１ＵＰ中に足滑らして死んじゃったことあるんだけど…。モ〇ハンも弓持ってドスファンゴ一匹とブルファンゴ四匹に囲まれてボコボコにされた記憶が…。というか、神様も結構ゲームのこと知ってるんだ。

「まぁいいや。それで？なんで僕はこんなとこにいるんでしょうか。いまいち記憶がはっきりしないんですけど」

「「ここは現世から死後の世界に行く途中にある空間だ。お前は帰宅途中に男にバタフライナイフで背中から刺されて死んでしまったのだ。お前が見た赤いのはお前の血だ」」

あ～、刺されたのか。痛すぎて感覚無くなってたかな？刺した人に見覚えがないし、恨まれる覚えもないから通り魔とかかな。

「「　いや、ただの人違いだったようだ。恋人を取られたらしい。これが本来刺されるはずだった者の捨身だ」」ピラッ

「…これのどこをどう見て僕と間違えるんだよ、似ても似つかない全くの別人じゃん！！」」

「そこは刺した奴の感性だろ？恋は盲目とも言うし」

確かにそうだけどさ、後ろ姿似てたのかな。って、ん？

「声が重なってない？」

「「飽きた」」

ちょっ、飽きたって！

「この姿ならそうした方がいいかと思ってな」

別にいいよ！僕のイメージ通りにしか動けないのかと思ってたよ！

「まぁいいやもう。で？死んだ僕に何かようなの？」

「暇を持て余した」

「神々の」

「「遊び」」

もうそのネタはいいよ！飽きたんじゃなかったの？

「いや、これはネタじゃないんだ」

「なぬ？」

「我々って寿命とかないから本当に暇を持て余してるんだ。だから、死んじゃった人に何か適当な能力を与えて転生でもさせてみようって事になってね」

「それで、ランダムに選んだら君に当たったわけだ」

え、マジで？よく二次小説で見るあれ？ワザと殺したわけじゃないよね？

「さすがに我々でもワザと人間を殺したりなどせん。かわいそうだろ。で、転生の条件なんだけど」

やっぱ、条件あるんだ。俺ＴＵＥＥＥＥとかできないのか。

「いや出来るよ？ただ場所が決まっているだけ。というかさっき決めた」

そうなんだ。別にするつもりはないからよかったんだけど。場所は決めれないのは少し残念だけど。てかさっき決めたって？

「君、死ぬ前にコレを本屋で買っていただろ？」

そう言って神様が取り出したのはトリコの単行本。そういえば、お試しで読んでみて面白そうだから一巻からまとめ買いしたんだった。ということは、場所はトリコの世界？

「そうだ。お前が起きる間暇だったから読んでたら面白って二人してはまった」

「人間たちは本当に面白いことをいろいろ思いつくね」

やった！まだそこまで詳しくは読んでないけど、出てくる珍しい食材は食べてみたかったからね。

「最初はそのまま送るつもりだったんだけど、それじゃあすぐにぴちゅりそうだから力を与えてから送ることになったんだ。それで、君の希望を聞こうと思ってこの空間で待ってたんだ。だから何かほしいほしい力はある？特に制限とかもないよ」

ん～、やっぱりとりあえずグルメさｉ「それはもうすでに付けてある」…うぉ、マジでいつのまに。だったら…、うん、グルメ界を生き抜けるぐらいの身体能力と、どんなとこでもすぐ対応できる適応力、あとは仮面ライダーＷで出た地球の本棚みたいなやつでトリコの世界に対応してるの。食材の捕獲レベルとかも載ってるのがいいな。

「そのぐらいでいいのか、遠慮しなくてほしいならまだまだ付けれるぞ？ネギまに出てくる魔法全部取得とか、漫画に出てくる剣術全部取得とか。見た目とかイケメンに変更とかも出来るが」

いやいや、最強の知識みたいなのと身体能力持ってる時点で十分ですよ、あの世界にないような力とかあまり使いたくないですし。それに、この見た目も気に入ってるし女性キャラ誰が出てくるか知らないしモテたいとも思いませんしね。むしろイケメン爆発しろ、ですし。

「ふむ（別に顔は悪くないと思うのだがな）、まぁお前がそれでいいならいいんだが。その条件で送ってやる。あとは適当にこちらでオマケしておく。あとお前途中から口に出すの忘れてただろう」

「あ、そういえば。思考読まれるから口に出し忘れてた」

そう言っていたら視界がぼやけてきた。

「あぁ、言い忘れてたけど原作よりそこそこ前に送るから、適当に力の練習とかしときなよ。原作とか気にせずにやっちゃっていいし」

え？まぁいいか。知らない食材とか食べたり、なにか技術でも習得するか。

そう考えながら僕の意識はだんだん遠くなっていった。

プロローグ（後書き）

批判中傷はダメですが、誤字脱字の指摘はしてもらえるとうれしいでござる。

キャラ説明（前書き）

オリ主の説明でげす。

キャラ説明

名前／カオル
性別／雄
頭髪／黒毛で、肩より少し上ぐらいまで伸ばしていて特に整えたりせずに自然のままにしている。前髪も切るときの気分で変わる。今は眉の上辺りまでにしてある。
身長／１８０？（トリコとよく一緒にいるため普段は小さく見られがち）
服装／黒地に黄色のラインが入ったジャージ
能力（東方風に）／「全ての物事を検索する程度の能力」「グルメ界を生き抜く程度の能力」
能力説明／仮面ライダーＷの「地球の本棚」のトリコ版で上位種。検索の際、オリジナルほど時間がかからず、ある程度なら戦闘中でも検索可能。
もう一つは、力や瞬発力、危機管理能力などあらゆる身体能力が格段に上がっている。いろんな地形・気候にも少ししたらすぐに対応できる。
両能力ともばれたらどうなるか分からないので少し簡単に説明している。（高い身体能力と捕獲レベルの付いている物の能力などの把握）
攻撃方法／ノッキング・肉弾戦
備考／濃い緑色の眼鏡装着。
ノッキングマスター次郎の弟子。なのであらゆるノッキングを教え込まれている。
人物説明／元はただの人違いで殺されちゃった高校生。そしたら神様が暇つぶしで転生させてくれる事になった。トリコの世界に行くことになった理由は、カオルが死ぬ前に持っていた単行本を神様

が気に入ったから。

キャラ説明（後書き）

今後随時更新する可能性アリでありんす。

メニュー1　その2（前書き）

意気込んでこの作品を始めてみたのに、構想はあっても文章にできず遅くなった上に２００字ギリギリの激短です。
あと、作者は原作は読みましたが単行本を持っていないので細かい会話などはうろ覚えでしゅ。

メニュー1　その2

――――

「それで、依頼内容は把握したかいトリコ」

初めにトリコが聞いていなかったせいでもう一度依頼内容を聞き直した僕たち。

「ガララワニの捕獲か、難しいな」

「や、やっぱり有名なトリコさん達のコンビでも難しいですか…」

なんか勘違いをしているみたいだねコマツ君は。

「いや、狩るだけだったらその額でいいが、捕獲だったらその倍額用意しろ。それで捕ってきてやる」

僕たちだったら普通のガララワニぐらいだったら余裕だし。もっとも、そのガララワニが普通ならね。

メニュー1　その2（後書き）

次は初戦闘…に入れたらいいなと思います。先に主人公の初食事シーンが入りまする。

次話の文章は多少は出来ているので今回よりは早く投稿出来ると思われます。

…前書きの文の語尾、自分で言ったと思うとキモイな。

メニュー2　食前話（前書き）

なんとか投稿出来たでござる。
この後どうしようかのう。

メニュー2　食前話

いきなりガララワニ捕りに行く前の船上で食事中です。ン？飛んだ？こんくらい普通普通。

「ストライプサーモンうまっ！脂のりすぎ！」
「もうちょっと丁寧に食べろよ。美味いのは認めるが…」

なかなかのサイズのストライプサーモンを二人一匹ずつ食べる。トリコは背びれや骨ごと丸かじり。僕はちゃんと捌いて刺身にして、たまに寿司塩につけて食べている。骨とかよくそのまま食べるな、あとで揚げて骨せんべいとかにして食べればいいのに。

「で、コマツ。どこの高級ホテルで働いてるんだ？今度二人で食いに行くから教えろよ」

とりあえずトリコ、お前は食べながら喋るな。食べかすが飛ぶから。

「あれ、僕料理人だって言いましたっけ？」
「トリコの鼻は犬並みにいいんだよ」
「あぁ。それでお前の手にこびり付いて落ちないいろいろな高級食材たちの匂いでわかったんだ」
そう言いながらも百合おにぎりを食べ続けるトリコ。前から思ってたんだが米にフルーツウメボシってあうのか？トリコのことだからちゃんと合う米使ってるんだろうな。
そんなことを考えていたら説明も終わっていたみたいだ。トリコも僕も自分たちの食いものは全部食べ終わったし。といっても僕は

刺身だけだけどね。

「おーい、島が見えてきたぞ！」

おっと、良いタイミングでついたね。

今喋ったのはこの船の船長のトムだ。船の操作がかなり上手く、そこそこ有名だ。

そう言ってる間にも船は狭い岩礁地帯を進んでいく。このあたりもちゃんと原作通りに進んでいくな。…それにしても、ホントに良く転がるなコマツ君。

僕とトリコは普通に立っているが、コマツ君は右に左にと転がっている。まぁ普通の料理人じゃしょうがないよね。よく原作で上陸する時酔ってなかったな。

「ん？」

「カオル、お前も気になってるか…」

「あ、あぁ。なにか大物がいるよね、フライデーモンキーもこんな所まで出てきてたし」

トリコと僕は、一瞬島から何かを感じ喋っていたらコマツ君が今回のガララワニについて説明してきた。トリコはコマツ君の説明で納得したけど僕は違う。昔修業で師匠と旅をしていた時に出会った“アイツ”と似た雰囲気を感じた。こんな所にもにもいるのか…。

そんなことを考えていたけど特に問題もなく原作通り上陸し、トリコ曰くネコを威嚇しておっぱらったり、コマツ君の銃が意味なくなったときのリアクションを見たりした。なんかリアクションでかくない、コマツ君？

このまま原作通り進んでくれるとうれしいんだけどな。今回は師匠もいなくて、トリコはいるけどコマツ君もいるから不安にもなる。

不安ながらも三人で森に入っていく僕たち。

水中から何かの影がこちらを覗いていることに気付かずに…。

メニュー2　食前話（後書き）

自分も仕事柄手から臭いがなかなかとれません。大量に処理しないといけないので落とす暇もないです。具体的には、ニンジンのオレンジ色が付いてニンジンと玉ねぎとニンニクとバニラの香りが同時にします。最後のは仕事外で付いたものですがね。

次回、ワニと別に何かが出る！でも何出そうかな、やっぱお魚さんかな。

メニュー3　水竜（前書き）

やっと投稿、やっとモンハンである。そんなに出ないけど。
最初の予定だとガララワニ2頭でつがいの討伐にしようかと思ったけどなんとなくモンハン要素をさっさと出したくてやってしまったである。

最近水仕事で手荒れが酷く、キーボード打ってるとイタイ。打ち終わってキーボード見てみると血が…。

11月25日　サブタイ変更

メニュー3　水竜

「うわぁ！？」

ゴムボートから降りて森の中を進んでいたらコマツ君が驚いた声を上げたので見てみたらヘビガエルに驚いたようだ。トリコはそれを速攻で捕獲していたけど、今夜の夕食の一部かな？

ちなみに、今トリコ・コマツ君・僕という順番で細い道を進んでいます。

その後は、バロンヒルイベントもあったけど島に着いた時に感じた視線は全然感じられない。このまま原作通り進んでくれると楽で良いんだけどな。

そして日もおちてきたので夕食タイム。さすがに最初に捕ったヘビガエル一匹じゃ足りないので持ってきていた物と周りにいた奴から必要な分だけ捕獲。ヘビガエルは串を刺して丸焼き、…この焼き方見るとモンハンの肉焼きみたいにグルグル回したくなるな。

「あの、この周りにいる動物たちはいきなり襲ってきたりしないんですか？」

コマツ君はヒルに噛まれて未だに止まらない血を気にしつつも周りも怖くて仕方ないようだ。

「安心しろ、こいつらは俺達の食べ残しが目当てなんだろう。俺とカオルがいて食べ残すなんてほとんどないのにな」

酒を飲みながら言うトリコ。だけど、それはここにいる理由であって襲ってこない理由は僕達二人にビビっているんだと思うんだけ

どな…。まぁコマツ君は納得しているからいいか。
食事がほとんど終わったら突然、周りの獣達は何かから逃げるように去っていく。何事かと思っていると近くの沼からヌマヘビが飛び出てきた。しかし、そのまま地面に倒れてしまった。良く見ると噛まれた場所が二ヶ所ありそれが死因らしい。

（ん、二ヶ所？）

原作では一ヶ所だったはずなんだけど。やっぱりいるのか…。
そうしたら近くと少し離れた所から大きな気配を感じた。トリコも両方気づいたようだ。

「トリコ、僕はあっちの方の相手するからこっちの相手とコマツ君の事お願い」
「あぁわかった。向こうの方が強そうだから気をつけろよ」
「了ー解」
「え、カオルさん！？」

コマツ君がなにか言ってるけどスルーして全力で目的地まで走っていく。
そして、森の中を気配があった方向に走っているとひらけた場所にでた。そこはさっき休憩していた場所より少し広い場所でそばに川が流れていて真ん中あたりに他のに比べて少し太い木が生えていた。

「たぶんまたモンハンなんだろうけど、この地形で最初の気配のあった場所から考えてアレだよな…。…！」

歩いて周りを見渡していたら、川の方からすごい音とともに水がレーザーのようにこちらに向かってきた。僕はそれを前方に飛ぶよ

うに転がって避け、水が飛んできた方向を見た。

「…やっぱりキミだよね。しかも亜種」

こちらに水レーザーを撃ってきた奴は川から首だけ出してこちらを見ていたが、一度水中に潜ったと思ったらいき良い良く飛び出してきた。そしてそのままその全身にある綺麗な翡翠色の鱗が、横ビレになった翼以外で唯一ない腹から地面に着地すると、身体をうねらせながら進んでから跳ねて立ち上がってからこちらに威嚇してきた。

「ゲームでも結構綺麗だったけどリアルで見てみるとさらに綺麗に見えるね…ガノトトス」

前世で僕も良くやってたゲーム、モンスターハンターで登場した大型モンスター『ガノトトス亜種』。それが今僕の目の前にいる。

メニュー3　水竜（後書き）

モンハンから初登場はトトスさんでした。他にフロンティアから大食いだからパリアプリアとかも考えましたがなんとなくトトスさんです。パリアさんは今後出すと思います。トトスがでた広場ですがモンハンの砂漠で洞窟の外でトトスが出てくる場所の周りと中心の岩を木にした感じです。

あとこの話が終わってからフグクジラの話に入る前に主人公の嫁を出す話を書く予定なんですが今迷っています。すでに出来上がっているオリキャラ（作者趣味全開）にするか、他の作品のキャラ（こちらも作者趣味全開）にするか迷っています。まぁあと二話ぐらいあるからじっくり考えるか。

あと主人公について。主人公の能力でグルメ界で生き抜けるぐらいの身体能力って言ってましたが、作者の同居人（トリコ知らない）に「すごい身体能力だったらデュララの平和島静雄と同じ体質にすれば？」って言われました。

たしかにあれで限界とかなかったら生き抜けるぐらい身体能力つくのかな？この設定だったらトリコと出会ったときに、まだまだ成長途中で今なお成長中みたいに出来るな。…本当に変えてみるかな。

メニュー４　水竜戦（前書き）

遅くなってまことにすいませんです。初戦闘ですが結構あっさり終わっちゃいます。難しくて…。

クリスマスのうちに投稿したかったんですが、書いてる途中で寝落ちしちゃって目が覚めたら１２時を回っていたという。

メニュー4　水竜戦

威嚇してきたトトスはまた腹這いになり身体をうねらせながらこちらに迫ってきた。その身体のでかさのせいで結構な速度で進んでくる。

「よっと」

速度はあったが、こちらと距離もあったので余裕でトトスの範囲外から横に跳んで避ける。トトスはそのまま横を抜けていく。と、思ったが…、

「!?、くっ」

身体をうねらせながら進んできていたので尾ビレも大きく揺れていてそれに当たってしまった。避けたと思っていたせいで防御も遅れてまともに受け、弾き飛ばされて中心にある木に叩きつけられてしまった。すぐに立ち上がりトトスのほうに向きなおる。

「ちっ、とりあえずどう捕獲してやろうかな。師匠なら初見でも一発でノッキングしそうだけどなー」

実際に最初に出会ったモンハンのモンスターに驚いていたけどある程度相手の観察した後ノッキングしちゃったしね。

そんなことを考えながら、突進が終わってこちらに振り向こうとしているトトスに向かって拳を握り駆け近づく。トトスがこちらに振り向き終わる瞬間を狙い地面を蹴って、

「はぁ！！」
ギャァ！？

顎を思いっきり蹴りぬく。顎を蹴られたトトスは多少怯んだがまだまだ戦えるようだ。ちなみに僕がノッキングガンを使わないで戦うときは肉弾戦で、蹴り技主体で戦うよ。
それはいいとして、トトスはキレたようで尻尾（尾びれ？）を身体ごと振り回してきた。僕はそれに当たる前に攻撃範囲から抜け出る。

「まったく、トトスは身体がでかい分攻撃範囲が広いからゲームだと結構嫌いだったんだよね」

さすがにゲームみたいな亜空間タックルみたいにならなくて表面ギリギリで避けても大丈夫みたいだね、と考えながら回転攻撃が終わってそのままタックルしてきたトトスをスライディングの要領で回避する。そのままの勢いでタックルをして片足立ちになってるトトスの軸足の方を蹴る。

「こけろっ！」

もともとバランスが悪くなっていたトトスはあっけなくこけてしまう。そしてトトスがはねだす前に最初に蹴った場所と同じところを顎が潰れない程度の力で蹴る。するとゲームでいうスタン状態になり時折ビクッとはねるが大人しくなった。動かなくなったのを確認してから、ジャージの上着の中からノッキングガンを取り出しトトスの上に乗る。

「ノッキング！」

エラの後ろ辺りに向かってノッキングガンを打ち込む。すると、はねることもなくなりピクピクする程度になった。無事にノッキング出来たようだ。

「緊急の捕獲クエスト終ー了ー。トリコ達の所に戻るか、向こうも終わってると思うし」

ノッキングガンを片づけてからトトスに背を向けて歩き出す。

「っと、忘れてた。このまま放置してたらその辺の動物に食われちゃうな」

そう言いながらポケットから一つのケースを取り出す。それのふたを開けると大きな網が飛び出て来たので、そのままの勢いで広げてトトスに被せる。そうしたらノッキングされてピクピクしていたトトスが動かなくなり寝息を立て始めた。

「ネンチャク草にツタの葉、ネムリ草その他もろもろでＩＧＯが試作した捕獲用麻酔ネット。まだ弱い奴かギリギリまで弱らせないと使えないけど完成したらメチャクチャ使えるよな、これ」

この麻酔ネットは僕がモンハンのモンスターに会った時用にとあるツテから貰い受けた試作品。相手を眠らせるのに加え、周りの生き物の嗅覚や視覚を誤認させる香りが出る物なども使われていて数時間だけならそのまま放置していてもばれずに隠せる優れ物だ。ただし、もの凄い強い相手などはごまかせないけどこの辺りならガララワニ以外は特に問題はないだろう。

しかし、まだ試作段階のため数があまりないので僕はモンハン系のモンスターのように本当に珍しい生き物にしか使用許可が出てない。そのせいで今回初めて使用してみたが効果は十分のようだ。

「あとで向こうに連絡入れないとね。しっかし、結構モンハンの素材もあるのには驚いたよ、…ゴム肉まずかったなー」

なんてどうでも良いことを考えながら今度こそトリコ達ほうに歩きだした。

グルゥ…

メニュー４　水竜戦（後書き）

はいすいません、最後のはいっとき出ないので大丈夫です。次の話が終わったら嫁が出ます。今回は合計で二回ぐらいしか攻撃してませんがこのトトスの強さは最下位のトトスだと思ってください、最初だしね。つぎのモンハンモンスターはもうちょっと強いのを出しマッスル。

もうちょっと執筆が早かったら嫁とのクリスマスの話を書けたんですが残念です。

今年のクリスマスはケーキは普段もたまに作っているので今回は三種のミルクレープを作って２４日の夜にラップして冷蔵庫に入れていました。そして今日帰ってみると家族が美味しそうに食べてくれていました。俺の分も残らず綺麗に…。まぁ美味しく食ってもらえたからいいか。

次回はなんとか年末使って今年中に投稿したいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6984x/

ノッキングマスターの弟子

2011年12月26日00時51分発行